

氏名

点数

点/100点

各論演習 30-1

問1)

いま、以下のようなA、B、Cの3つの独立投資案があるとする。これらは、それぞれ異なる新製品の製造・販売計画であって、たとえばA案は、現時点で10,426.8万円の設備投資をすれば、第1年度末に、4,000万円の純現金収入が得られる。同様に、第2年度末に5,000万円、第3年度末に2,000万円の純現金収入が見込みであって、そこでこの投資は終了する。各案の現時点での投資案に（ ）がついているものは、現金の流出額を示す。

(単位：万円)

投資案	T0	T1	T2	T3
A	(10,426.8)	4,000.0	5,000.0	2,000.0
B	(5,857.4)	2,000.0	2,000.0	3,000.0
C	(8,019.0)	3,000.0	3,000.0	3,000.0

なお、現価係数および年金現価係数は次のとおりである。

現価係数

n/r	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%
1	0.9709	0.9615	0.9524	0.9434	0.9346	0.9259	0.9174
2	0.9426	0.9246	0.9070	0.8900	0.8734	0.8573	0.8417
3	0.9151	0.8890	0.8638	0.8396	0.8163	0.7938	0.7722

年金現価係数

n/r	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%
1	0.9709	0.9615	0.9524	0.9434	0.9346	0.9259	0.9174
2	1.9135	1.8861	1.8594	1.8334	1.8080	1.7833	1.7591
3	2.8286	2.7751	2.7232	2.6730	2.6243	2.5771	2.5313

次のそれぞれの方法によって、各案を解答用紙に従って答えなさい。なお、資本コスト率は5%とする。

【設問1】 正味現在価値法

【設問2】 収益性指数法
 (指数は小数点以下第3位を四捨五入すること。)

【設問3】 内部利益率法
 (率が整数により容易に算出できない場合は、上記表を利用して試行錯誤による補間法で計算し、小数点以下も解答すること。)

【設問4】 単純回収期間法
 (年々のネットキャッシュ・フローの累積額を使用する方法によること。)
 (回収期間は小数点以下第3位を四捨五入すること。)

【設問5】 単純投下資本利益率法 (投資額は平均投資額によること。)
 (【設問1】で採用すべき案のみ計算し、順位を付しなさい。なお、【設問1】で採用すべきでない案については、その旨を記入するのみでよい。)
 (率は%未満第3位を四捨五入すること。)

解1)

【設問1】

	正味現在価値	順位	判断	
A	万円	位	採用すべきで	ある ない
B	万円	位	採用すべきで	ある ない
C	万円	位	採用すべきで	ある ない

【設問2】

	収益性指数	順位	判断	
A		位	採用すべきで	ある ない
B		位	採用すべきで	ある ない
C		位	採用すべきで	ある ない

【設問3】

	内部利益率	順位	判断	
A	%	位	採用すべきで	ある ない
B	%	位	採用すべきで	ある ない
C	%	位	採用すべきで	ある ない

【設問4】

	単純回収期間	順位
A	年	位
B	年	位
C	年	位

【設問5】

	単純投下資本利益率法	順位	判断	
A	%	位	設問1で採用すべき案で	ある ない
B	%	位	設問1で採用すべき案で	ある ない
C	%	位	設問1で採用すべき案で	ある ない